

学術ポータル担当者研修レポート

静岡大学附属図書館

真中 進

高橋 里江

まず最初から道を間違えていた当館は、研修後のリハプレゼン、レポートの存在に気づかず、ただロールプレイということで架空の状況（現実よりもちょっとだけ都合のいい状況。それも過去にさかのぼる形で）を設定し、研修時の発表を行った。（添付資料1）

その状況設定は、「年度当初の図書館委員会（大学教員と図書館上層部らで構成）にて、今年度事業の頭出し。報告事項扱い。／すでに同委員会の下に審議のうえ検討部会が設置され、数次にわたって検討を重ねている。／委員の中には検討部会の構成員も含まれているが、半数は機関リポジトリなる語について、初耳と思われる。／企画書（2ページ）を印刷したものが会議資料として委員の手元に配られている。その資料に基づき、口頭で説明」というものであった。

資料に含まれる経緯説明やいくつかあげられた件数、金額もすべて架空のものである。

これを元に、今年度このような事業を立ち上げるのでぜひご協力をお願いしたい、という趣旨の発表を行ったが、資料中の次年度以降支出があがるが予算の裏づけはあるのかという疑義、発表時うたい文句の一つとした外部資金の呼び水になるかも、ということについての具体的な例を求める質問等があった。

本来ならこのレポートでは、これらの指摘を元に資料あるいは発表方法を改良し、そのプレゼンリハを組織内で行った結果を報告するのであるが、このプレゼンリハは、本番を前提としない架空のものとなる上、さらにリポジトリ立ち上げに向け実際にコンテンツ収集にも乗り出している今となっては過去の話であることもあって、行っていない。

教授会等の時間を拝借した広報を始めたところなので、その際の質疑等について報告して、そのかわりとさせていただきたい。なお、その場の発表者は館長、分館長であり、受講者ほかが質疑応答時の補佐役として同席した。

「静岡大学学術リポジトリ」については、学内の総合戦略会議、情報戦略会議、あるいは広報委員会等で立ち上げについて露出した後、10月末に館長、分館長連名で学内教員へ一斉にメールによりちらしを配信している。（添付資料2）ちらしは館内のリポジトリ広報担当により作成された。受講者は直接作成にはかかわっていない。

教授会資料としてはそのちらしにコンテンツ収集開始日等を加えた修正版（添付資料3）を配布している。

時間は質疑応答も含め10分を目安にということであったので、簡単にリポジトリとは何か、「静岡大学学術リポジトリ」立ち上げのここまでの経緯、体制について述べ、協力を要請した。

受講者が同席した教授会での質問（Q）とそれに対する回答（A）、意見（O）は下記の通り。

- Q. 著作権の問題は本当にクリアできるのか。むしろ登録できるのは未公開のものだけでは。
- A. すべてが載せられるとは言えないが、条件をクリアすることで載せられるものもある。事前にリスト等いただけるなら幸いである。
- O. (Q?) 著者最終稿などというが、はっきり言ってどれがどれだかわからなくなっている。明確なものだけをのせるとなると、ほとんど何も載らないことになるのではないか。
- Q. コンテンツそのものを載せることにきゅうきゅうするより、業績のメタデータだけとし、これを充実させたほうがいいのではないか。
- 教員情報データベースとの連動は。
- 論文については、その論文掲載先へのリンクがあればいいのでは。
- A. 教員情報データベースとの連動は未定。
- 他のシステムへのリンクも未定。
- 中身も載せることを前提としている。
- O. 他大学にあつては雑誌論文だけに限らず、授業成果など広くフリーで共有しようというもので、大いに進めていくべきものである。（図書館でクリエイティブコモンズについて一席ぶったこともある教員による応援演説）
- Q. 学会の一部会を運営しているが、近年独立採算に対する要請が強い。無料で配っていたものもどんどん有料化していつている。無料での公開など持つてのほかというところが多いのではないか。
- A. 学会、出版社によっては所属機関での公開を認めていることもある。（いくつか例示）
- Q. 載せられるところがあるのなら、そのリストを配布すれば載せようという者も出てくるのでは。その一覧は提供されるのか。
- A. サンプルリストとするか、一覧の載ったたサイトへの案内とするか、何らかの形で広報を行っていききたい。

同席しなかったほかの教授会では、共著者への許諾のとり方、コンテンツの対象範囲（種別あるいは発表時期）、公刊時に誤植等があった場合訂正したものを載せるのは可能なのか、載せる際のファイル形式は、外部データベース（たとえば PubMed）からリポジトリへのリンクというのは考えているのか、等々の質問がなされたとのことである。

学科会議での広報も実施された。受講者は不参加。館内のリポジトリ広報担当、著作権処理担当らによるプレゼンで、広報担当作成の ppt に基づくりポジトリについての概要説明の後、登録にいたる手順と権利処理上の留意点について話をした。（添付資料4）著作権関係、収録対象とその掲載形態等について、突っ込んだ質問があった。発表者によれば、

今回は特殊なケースで、図書館長所属の学科であったため、事前に情報がいきわたっていた、いきなり手続き的なところから話し始めてもよかった、とのことである。

教授会における説明は 11 月末時点で全部局の半分ほど、今後のこりの教授会での広報のほか、メール配信時に反応があった方を含め、教室あるいは個人向けの出前広報も順次行っていく予定である。

また、質疑応答の記録は、立ち上げ準備中のリポジトリホームページの Q&A 集に反映される予定である。

- 添付資料 1 20070710.doc 研修の発表時と変更なし
- ” 2 20071026.pdf
- ” 3 20071112.pdf 2 に若干加筆しただけのもの
- ” 4 20071106.ppt